

---

## 絵画専攻

日本画領域

油画領域

版画領域

---

### Painting Course

Japanese Painting

Oil Painting

Printmaking

---

# 青木 香保里

AOKI, Kaori

## 生命の起源について

Origin of life



境界 XII  
Border XII  
墨、顔料 / 和紙  
Sumi, pigments on Japanese paper  
170 × 280cm / 2点1組

私の内側には昔から「生命の根源となる混沌とした霧のようなもの」という漠然としたイメージが存在している。その正体を探り、形にする事が自身の創作活動における最も重要な欲求である。

その為に、これまで私は魚や蝶、花、その他あらゆる自然界にある形や動きを借りながら制作を続けてきた。そして、2012年から展開する『境界』と題した一連の仕事では、海月をモチーフとした作品を描いている。

その中で、私に重要な示唆を与えた言葉がある。古事記の冒頭にある以下の一節である。

『次、国稚如浮脂而、久羅下那州多陀用弊流之時、如葦牙因萌騰之物而成神名、宇摩志阿斯訶備比古遲神。』

これを現代語に訳せば、『浮かんだ「脂」あるいは「海月」が漂っているような状態から世界は生成された』という意味となる。この一文との出会いが契機となって、海月は私にとってある固有の生物の枠を越え、混沌とした海の中に浮かぶ未分化の生命のイメージそのものへと変化した。



境界 XI  
Border XI  
墨、顔料 / 和紙  
Sumi, pigments on Japanese paper  
170 × 280cm / 2点1組

修了論文：風土と芸術の関わりについて  
Relations of Japanese Climate and Art

# 井口 信

IGUCHI, Shin

## 原始芸術と神話を基にした独自表現

Original representation from primitive art and mythology

ユートピア

Utopia

岩絵具、銀箔、土 / 綿布

Mineral pigments, soil, silver leaf on cotton

230 × 680cm



私はこれまで「神話」や「宇宙」、「原始芸術」を想起させるような作品制作を行ってきた。また、制作を通して「圧倒されるものをつくりたい」と思っている。それはそれらが途方も無いスケール感で人々を圧倒するものの一つであるからであり、私自身も神秘的なものへの興味は尽きないからである。

世界には様々な人種、文化があり、それぞれに神のような神聖化された対象や神話などが存在する。そして、それぞれの教えの差異はあるが、たくさんの共通点も見出すことができる。また、それらが同時多発的に存在しているということなどからも、神や神話を作り出すことは、自然に対する畏敬の念を抱くというような人間に備わっている一種の本能なので

はないかと思うのである。そう考えると、現代では細分化し枝分かれしている神話や文化などは発生の段階では全く同じであるかもしれないし、時を遡れば混沌とした一つの点に結びつくのかもしれない。

「原始芸術」は神話のルーツを探る上で、神話や宗教的儀礼、呪術的用途の世界中に共通する形態や思想を感じさせるものである。

また、「原始芸術」は人間に先天的に備わっている美意識や宇宙観を見出すための一つの手がかりである。

そして「原始芸術」には世界中の人々の共通のふるさどのような世界観や美意識や、未分化な世界観、我々がまだひと

つであった時のような感覚を呼び覚ましてくれる。

さらに過去に遡ることができるのなら、人間が人間になる前の時代に初めて抱く極めて純粋な美的本能や自然界に対する恐怖や神秘性ということになるであろう。

これらを「原始芸術」や、世界の人類及び神話がもともと一つであった可能性があるという考えに立つ「世界神話」、世界の諸神話の共通点、神話に登場する様々な動物や形、モチーフ、などを手掛かりに独自の表現として考察した。

私は絵画制作を通して、世界が分化する前の世界観をイメージし、人間の根源的に持っている美的感覚や神秘的感覚を呼び覚ますことのできるような作品を描きたい。

修了論文：

原始芸術と神話を基にした独自表現

Original representation from primitive art and mythology

# 市塚 寛子

ICHITSUKA, Hiroko

## 大正期の日本画と自身の制作における細密描写について

Realistic painting in the Taisho period and my works

### 修士論文について

大正時代、東京では、速水御舟や小茂田青樹、小林古径を中心にした院展目黒派、京都では、土田麦僊、小野竹喬、榊原紫峰、村上華岳などの国画創作協会のメンバーや徳岡神泉の福田平八郎が細密描写を行った。画家各々、東京と京都によって細密描写の特徴や意味合いは違ったが、それは、内在の美の探求や、日本画画材による油彩表現の研究などであり、新しい日本画を創造するための革新的な挑戦でもあった。私は、速水御舟の問題作《京の舞妓》を中心に考察し、安雅堂画塾、画塾の先輩であった今村紫紅と赤曜会、御舟が基敵と例えた小茂田青樹、そして、当時の洋画界のカリスマであった岸田劉生が御舟に影響を与えたものについて述べ、自身の制作における細密描写について論じた。

### 修了制作について

私は一貫して身近なものを題材にして制作している。大学院では、主にうさぎをモチーフに制作した。うさぎは小学校の飼育小屋で飼われていたり、さまざまなキャラクターや童話、歌に登場したりととても身近な動物である。また、古来より数多くの美術工芸品の題材になっている。私は、現代のうさぎの表現をしたく、実際にうさぎを観察したり、うさぎと日本文化のかかわりについて調べた。

そこで私が注目したのが、日本独自の「波に兎」図像である。「波に兎」の起源には、

A 謡曲『竹生島』を原典とする説

B 「火伏せ」を祈願する説

C 『因幡の素兎』神話を原典とする説

(今橋理子『兎とかたちの日本文化』東京大学出版社、2013年)

と諸説ある。

私はこの中で、「謡曲『竹生島』を原典とする説」を根拠にした。謡曲『竹生島』の中に、「緑樹影沈んで、魚木に上がる気配あり、月海上に浮かんでは、兎も波を走るか、面白き浦の景色や」という一節があり、湖面に映り揺らいでいる月光の輝きをうさぎが波を走っている姿に見立て、そこから「波に兎」が誕生したという。私は秋ではあったが満月の日に琵琶湖に浮かぶ竹生島に足を運んだ。竹生島には泊まる場所がないので、夜は湖畔で月見をすることにした。その日は偶然にも皆既月食であったが、私はそれよりも月の出の明るく大きな月に向かって湖面に反射した月光がきらきらと一直線に走る情景に感動し、そこから着想を得て、修了制作の筆を執った。



月光波濤

Waves in Moonlight

岩絵具、顔料、金箔 / 雲肌麻紙

Mineral pigments, pigments, gold leaf on Japanese paper

194 × 194cm

修了論文：大正期の日本画と自身の制作における細密描写について ―速水御舟の《京の舞妓》を中心に―

Realistic painting in the TAISHO period and my works

—Focusing on 《Maiko Girl of Kyoto》by Gyoshu Hayami—

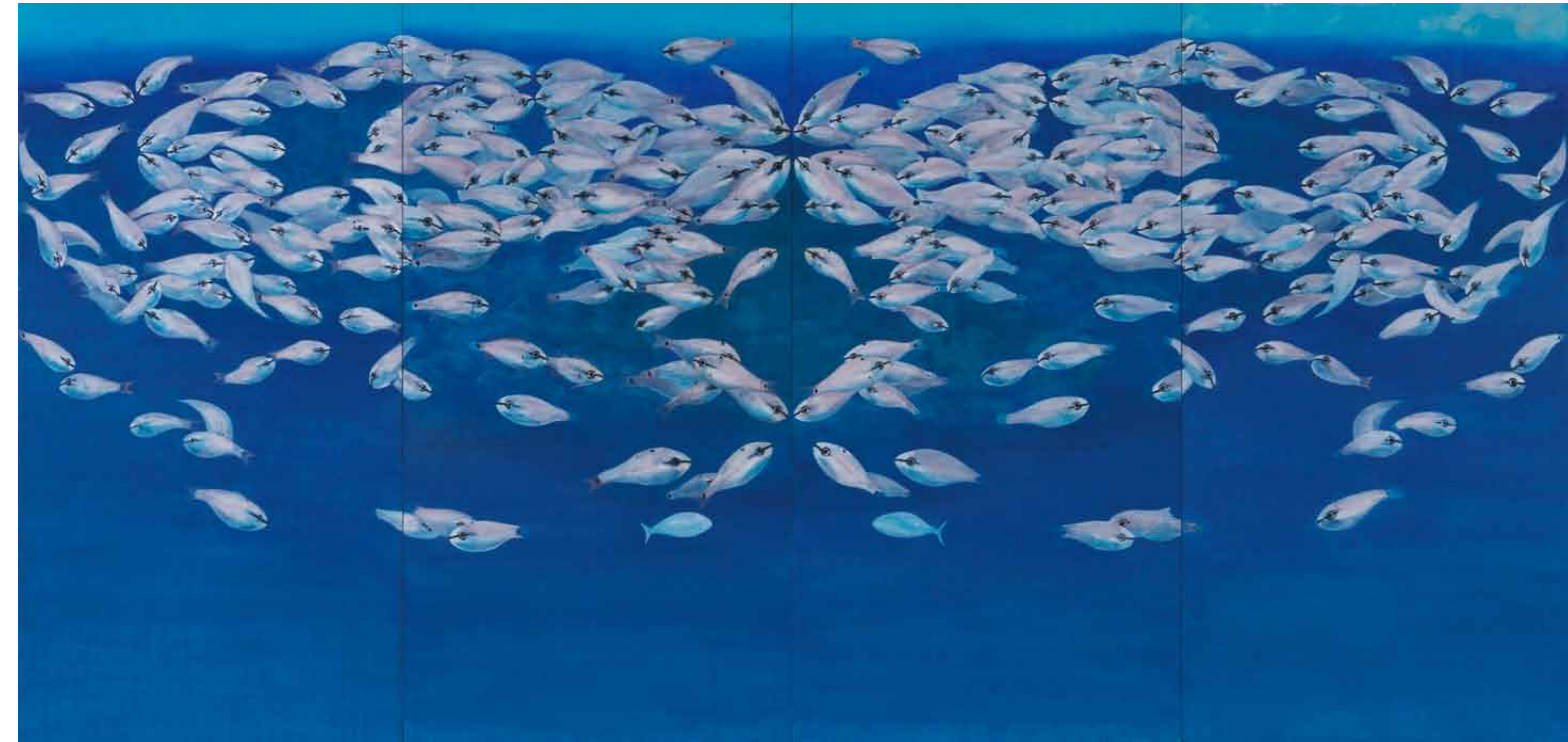
# 葛 琳

GE, Lin

## 日本と中国の伝統絵画が体現している美意識の考察

Discovering the aesthetics of Chinese and Japanese traditional painting

絵を描くことが個人の心の世界と自分の感情を表現する方法の一つで、最初はただ絵画への興味と憧れであったが、作品と作家さんから受ける感動と通感によって、絵を描きたい気持ちが時と共に増えてきた。まねる、考える、試みる、絵画を勉強してだんだん絵画の画風と技法に自分の理解が生まれた。新しい絵画の技法や、異なる文化の表現を作品の中に取り入れていることは大事、伝統を尊重し、伝承したい気持ちも重要なことである。その両者にバランスを維持させる、表現したい画面を工夫しては目標である。



海の花 / Sakura in the Sea  
岩絵具、水干絵具 / 和紙  
Mineral pigments, dyed mud pigments on Japanese paper / 175 × 364cm

修了論文：自身の絵画技法の探究 — 西洋から中国へ  
Exploration of painting techniques: From the West to China

桑原 愛

KUMEHARA, Ai

色彩と奥行き表現について

Representation of color and depth

私の制作はある程度手を加えた画面に薄い和紙を重ね、そこからまた手を加える、という作業を繰り返します。薄い和紙を重ね、下の色が透けて見える工程や、透過性の高い絵具と物質感や被覆力のある絵具を同時に使用しもう一度描き起こす作業は、記憶を呼び戻す感覚と、薄れていく感覚のそれと似ています。重なった映像を一つの画面に、単一の集まりだが調和的に共存する画面を表現する時、どういったアプローチが必要なのか。日々模索し続けています。



紅梅匂 / Koubainioi  
染料、顔料、岩絵具 / 和紙  
Dye pigments, mineral pigments on Japanese paper / 240 × 460cm

修了論文：二つの視点から創造される新たな価値観の形成  
Formation of a new sense of values created from two viewpoints

## 朴 常希

PARK, Sang Hee

### 人間の欲望に対する表現研究

Study on expressions of human desire

私は、所望と希望も欲望の様々な姿の一部だと思う。暗い欲望があれば、明るい欲望もあるだろう。しかし、私たちはこのような欲望を理性と意識の下で抑圧して生きている。他人との関係の中では、私の欲望を明らかにしてはならないのだと思っているからである。ここに私は、人間が一人で生きられない社会的制度と規範の下、他者と疎通することで生じる矛盾と潜在的無意識の欲望を直視し、抑圧された欲望を自分だけの絵に表現している。



パラダイス / Paradise

岩絵具、水干絵具、銅箔 / 高知麻紙

Mineral pigments, dyed mud pigments, copper leaf on Japanese paper

162 × 324cm

修了論文：色彩による人間の両面性の隠喩的な表現(自分の作品を中心に)

Metaphorical expression of human double-sidedness by means of color (Focusing on my work)

## 牧田 紗季

MAKITA, Saki

### 自身の制作における狂気的重要性

The importance of insanity in the production of artwork

人間社会はスピードを増し、より合理的になっていく。芸術作品を制作することはその対極にある、非合理的な行動であると考えられがちである。世の中はどんどん便利になっていく。その中で、わたしはとても幸せに生活する人間である。そのため微かな不幸にも心が揺さぶられてしまう。作品を制作することはそれによって生じた心の澱を絵画に昇華させたいという願望からである。また、社会の激流の中に取り残される砂粒のような自分が、かろうじて生にしがみついている唯一の方法である。

人々は皆、今日の自分のまま明日を迎えられると信じて、平静のままでこの流れに身を置いているのだろうか。わたしには、いつ発狂するともわからない不安定な細い綱の上を歩いているように思える。

狂気性とは誰しもが持っており、なにも特別なものではないと考えている。しかしそれは普段、どこか見えづらいところ一心の隅かまたは腹の奥底か一にひっそりとたたずんでいるのである。作品を通して、その見えづらい狂気性をふと思い出し共鳴してもらえたらと望み制作している。



耳鳴りの間 / Chamber of tinnitus

アートクロスに岩絵具、水干絵具

Mineral pigments, dyed mud pigments on art cloth / 182 × 364 cm

修了論文：自身の制作における狂気的重要性

The importance of insanity in the production of artwork

## 三木 綾子

MIKI, Ayako

### 風景を描く

Painting landscape

スキの原

A field of Japanese pampas grass

岩絵具、墨 / 和紙

Mineral pigments, Sumi on Japanese paper

182 × 271cm



一軒の家、一本の道、道端の草木、そんな小さな風景の連続で街の風景はできている。何気ない日常の風景は少しずつ日々変化していく。

日常の中で時々、懐かしい風景に出会う。私はその風景を絵にする。

私にとっての懐かしい風景とは自らの中にある原風景に近い風景であり、その原風景は幼少の頃に見た風景の影響が大きいと感じる。なぜなら、人の生活は街の風景に反映され、街の風景は人の心に影響を与えているからではないだろうか。

人も街も風景も日々変化していく。今、確かにそこに存在する風景は時とともに姿を変えていく。だからこそ今の風景に価値が、過去の風景に魅力がある。

修了論文：

「懐かしい風景」についての検証と

自身の制作についての考察

Inspecting scenery of nostalgia  
and consideration of my works

## 村上 夏生

MURAKAMI, Natsumi

### 表現の探り方について

How to explore representation



夏の記憶 / Summer of memory

彩色 / 紙本 / Color pigment on paper / 162 × 130 cm



よる / Night

彩色 / 紙本 / Color pigment on paper / 194 × 97 cm

修了論文：美を決めるものについて / What determines beauty ?